

## 着任挨拶

**北村 友人** 上智大学総合人間科学部教育学科 准教授  
客員教授（任期：2011年4月1日～2012年3月31日）



途上国の教育開発に関する政策研究や学校レベルでの調査などを行うとともに、国際機関・援助機関の国際教育協力プロジェクトの実務にもさまざまな形で携わっています。主に東南アジア・南アジア諸国の教育について研究を行ってきましたが、近年はとくにカンボジアやラオスなどのインドシナ諸国を中心に現地の大学や教育省と共に調査研究に取り組んでいます。名古屋大学では国際開発研究科において7年間教壇に立ち、貴重な経験の数々を積み重ねていただきました。今度はICCAEで、私の専門領域とは異なる専門家の先生方と議論をさせていただく機会を頂戴し、非常に刺激的な時間を過ごしております。こうした形で名大に戻って来られましたことを、とても嬉しく思っています。センターでは、途上国の農村における人材育成のあり方について、研究面・教育面で貢献をできればと思っています。浅学非才な私ですが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**略歴** 1972年生まれ。慶應義塾大学卒業。カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) 教育学大学院修士課程・博士課程修了。Ph.D. (教育学)。専門は、比較教育学、教育社会学、国際教育開発論。国連教育科学文化機関 (UNESCO) パリ本部教育局教育専門官補、名古屋大学大学院国際開発研究科准教授を経て、現職。他に、ジョージ・ワシントン大学フルブライト研究員、ダッカ大学 (バングラデシュ) 日本研究センター客員教授、王立ブノンペン大学 (カンボジア) 教育学大学院国際諮問委員等を歴任。

## 外国人客員教授／客員研究員紹介

### 農学分野におけるe-learningコースの開発に関する研究

**アヌチャイ・ピニョブミン** カセサート大学獣医学部・大型および野生動物臨床科学科 准教授  
外国人客員教授（任期：2011年1月17日～3月4日）



ICCAEの外国人客員教授として、野生動物生殖工学に関するe-learningコースの開発に関する研究に取り組みました。e-learningは、教える側と学ぶ側の双方にとって非常に価値のあるツールです。開発中のe-learningコースには、生殖生理学、精液採取・保存、発情同期化、人工授精法、妊娠診断など野生動物の人工授精に関するコンテンツが含まれます。本研究を通して、e-learningコースの開発には多大な努力が必要であることを実感しました。

客員教授として招へいして下さったICCAEの皆様、とくに山内章教授と前多敬一郎教授に深く感謝申し上げます。また、生殖科学研究室の東村博子准教授をはじめとするスタッフと学生の皆様、動物生産科学第1研究室の大蔵聡教授にも滞在中大変お世話になりました。ここに謝意を表します。名古屋大学の皆様とまたいつかご一緒できることを楽しみにしています。

**略歴** 1965年生まれ。1989年カセサート大学獣医学部を卒業し、獣医師資格を取得。1995年北海道大学獣医学研究科博士課程を修了し、獣医学博士を取得。カセサート大学獣医学部講師、助教授を経て、2007年7月より現職。同大学獣医学部長補佐、総長補佐、獣医教育病院長などを歴任。

### カンボジアにおける乳製品の製造加工・貯蔵技術に関する課題と展望に関する研究

**ノーン・チャクリヤ** カンボジア王立農業大学 助手  
外国人客員研究員（任期：2011年3月1日～3月31日）



近年、カンボジアの首都プノンペンでは、欧米スタイルのパンや菓子類を提供するカフェが立ち並び、外国製のアイスクリームが流行するなど、乳製品への需要が特に高まっています。しかし、加工産業の発達が遅れているため、自国での加工生産ができていません。そこで、国内における乳製品の製造加工と貯蔵の課題を見いだすための共同研究を始めました。日本では、香川大学農学部との協力を得て、基本的なアイスクリームの製造技術を習得し、カンボジア産の原材料を用いた国内生産への応用方法を見だし、帰国後は、国民に人気のある豆乳を用いた製品の可能性に関する研究に取り組んでいます。滞在期間中に実験指導をして下さった香川大学の小川雅廣教授、早川茂教授、そしてICCAEの教員の皆さまに感謝いたします。

**略歴** 1984年カンボジア生まれ。2006年カンボジア王立農業大学農産学部卒業後、2009年同大学大学院農村開発学修士課程を修了し、2009年より現職。

### ケニアのイネ品種の栽培特性評価および高収量・いもち病抵抗性系統のDNAマーカー選抜

**キャサリン・マチュンゴ** 国立灌漑公社アヘロ灌漑研究ステーション 研究・灌漑官  
外国人客員研究員（任期：2011年4月12日～10月10日）



生命農学研究科および愛知県農業総合試験場の協力の下、ハバタキ×Basmati370の交雑後代系統を利用したいもち病圃場抵抗性系統のDNAマーカー選抜、ケニアのイネ品種のいもち病抵抗性評価およびケニア在来品種の栽培特性評価に取り組みました。また、岐阜大学応用生物科学部に受け入れて頂き、放線菌のいもち病に対する生物防除試験を行いました。これらの研究成果は、持続的いもち病防除手法の確立、ひいてはケニアの農家の収入向上に役立つものと期待されます。このような機会を与えて下さったICCAEならびに全ての関係者に心より感謝いたします。

**略歴** 1980年生まれ。1995年、ナイロビ大学農学部卒業後、2009年、ジョモケニヤッタ農工大学大学院にて修士号 (園芸学) 取得。2008年10月より現職。